

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

池工が白馬なら縣陵は穂高、大町は八ヶ岳、塩尻志学館は・・・横内佳代氏が書いてくれました

長山協ジュニア登山教室のお手伝い 塩尻志学館高校

10月8日(土)は長山協主催のジュニア登山教室の日。これは小学生のための登山教室だが、山岳センターの傘木さん発案で、広島県の実例をモデルに3年前から始まった。試行錯誤を繰り返しながら、去年から年2回、夏は鹿島槍北俣本谷の雪渓に遊び、秋は湯俣で温泉に遊ぶという企画が定着している。ジュニア委員の5人を中心に、大町山の会やGDM(グループドモレーヌ)等から皆さんほとんどボランティアでスタッフをかって出てくれて、子どもたちの冒険を応援している。

今年の7月の北俣本谷は小学生の参加者がなんと28名、スタッフも11名で動いたが、その際にスタッフは多ければ多いほどいいと感じた。距離はたいしたことはないが、子どもというのは予想外の動きをするために精神的に疲れる。おもらしをしてしまう子、川に落ちて泣いてしまう子、最近ではADHD等の傾向も見られ、なかなか気を使う場面もある。

そんなわけで、秋の湯俣はぜひうちの二人も連れて行こうと思っていた。傘木さんには事前に相談し、OKが出た。今回は小3以上に限定し、参加も17名と夏よりは少ない。この登山教室はスタッフが何かを教える、というスタンスではなく、安全に配慮しながら基本的にはできる限り子どもの自由に任せるといったもの。とにかく目の届くところに居て一緒に歩いてくれ、ということで連れて行った。朝5時に学校へ集合し、大町へ向かう。私も含め、前日強歩大会で28キロ歩いたためか、朝はかなり眠かった。連休初日、本当に良い天気、早朝の七倉の駐車場はすぐに車で一杯になった。朝こそ寒かったが登山日和で景色もよく、途中槍ヶ岳も顔を出した。ただ、以前同じ時期に歩いて紅葉がきれいだったという印象があるが、今年は全く葉が色づいていない。タクシーの運転手さんは、今年はこのまま枯れるんじゃないか、と言っていた。

最初、彼らは小学生と何を話しているのかわからず戸惑っていたが、小学生からすれば一番年齢が近いのでやがて黙っていても向こうから寄ってくる。お昼を食べる頃には小学生からおかずを分けてもらったり、高校生がおやつをあげたりと、すっかり慣れたようで安心する。

昼食後は本日のメインイベント、河原の温泉で「足湯」と「温泉たまご」である。サンダルに履き替えて、大人も童心に帰ってすっかり楽しんでしまった。荷物がうまくまとめられなかったり、靴ひもが結べなかったりする子どももいるが、そんなときに彼らがうまく対応してくれていて助かった。

湯俣での実施は3回目になるが、道は平坦、トンネルあり、吊橋ありと変化に富んでいるので、小学生にとっては冒険的な要素がたくさん詰まった良いコースである。しかしこれも毎年問題になるが、小学生にとって往復20キロというのは結構な距離。行きはよいよい、帰りは・・・ということも予想された。最初の年はバテた子どももいて大変だったが、今回は3年生以上とあって全員歩き通した。だが、やはり帰りの道は行きほど新

鮮味がないので飽き気味。疲れて足も遅くなる。そんなときにも高校生の出番で、暗いトンネルの中で“小学生の大好きな”怖い話をしたり、事前に用意してきた飴をあげたり（おやつをあげて手なづけようと思って持ってきた、とは彼らの談）、なんとか気力を持たせながら、全ての子どもたちが怪我もなく、元気に七倉へ戻ってくることができた。迎えに来た親御さんたちに子どもを引き渡して、ようやくほっとする。

今回、彼らを連れ出してよかったと思ったことがいくつかある。中信の新人戦の際、なんとなく自分たちを否定したような、順位がつくことで何となく山を楽しめていないような彼らの態度がかなり気になっていた。それは部員が少なくなったことも多いに影響していると思っていた。今回、ある程度の役割を持ってまかされたことで、彼らなりに責任を感じて歩いたようだった。また、スタッフの方々からいろいろな山の話聞き、社会人として山を楽しむ姿に刺激を受けたようだ。七倉に帰り着いたとき、彼らがとても良い表情をしていたことや、車の中で、生き生きと今日の出来事を振り返りながら話をしている姿を見て、参加させてよかったなと思った次第（なお、活動



の様子は塩尻志学館高校の公式ブログに写真入りで掲載されています）。

今回は自分がジュニア委員だったという都合で合宿が出来ず、他校の充実した合宿の報告などを読むと彼らに申し訳ないような気もしたが、人数が少ないからこそ出来る活動というのもあるかもしれない。計画がある学校はぜひお声がけください。出来る範囲で一緒にしたいと思います。

編集子のひとごと

「かわらばん」をはじめたきっかけというのは、こういうことでした。そもそも年に一回発行している「中信高校山岳部年報」の情報をタイムリーに交換し合うことで、中信の高校山岳部がお互いに刺激しあえれば活性化につながるのではないかと……。どの学校もそれぞれにいい連休だったというのがうかがえます。415号で紹介したように、今月末、28・29日には技術研修交流会が行なわれます。1人でも多くの顧問、生徒の皆さんの参加を希望します。

また、今週末10月22日（土）23日（日）の両日は、長山協50周年記念「JFAクライミング日本選手権2011 マムートカップ選手権」と「視覚障害者日本選手権」が北志賀高原竜王スキー場ホテルタガワ内特設ウォールで行なわれます。僕は池工の生徒をテント泊で観戦に連れて行こうと思っています。日本国内の一線級の選手を目の当たりにできる貴重なチャンスです。中嶋渉君や笠原大輔君など長野の選手も出場します。ご都合のつく方はぜひおいで下さい。視覚障害者の大会も貴重な機会だと思います。詳細は<http://freeclimb.jp/compe/schedule/info/jcs11.pdf>でご確認下さい。

昨日は、かわらばん410号でご紹介した長山協名誉会長古原和美先生の「山80年の回想出版記念祝賀会」を行ないました。古原先生は今年米寿、さらに4月には叙勲も受けられたということで、それも合わせての祝賀会。35名の出席を得、古くからの山仲間が先生に刺激をもらえととてもいい会でした。（大西 記）